

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

| | |
|------|------------------|
| 学校名 | 全日本ウィンタースポーツ専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人国際総合学園 |

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 課程名 | 学科名 | 夜間・通信制の場合 | 実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数 | 省令で定める基準単位数又は授業時数 | 配置困難 |
|---------------|---------------------|-----------|-----------------------------|-------------------|------|
| 文化・教養 専門課程 | スノーボード専攻科フリースタイルコース | 夜・通信 | 1,644 時間 | 160 時間 | |
| | スノーボード専攻科ビジネスコース | 夜・通信 | 1,546 時間 | 160 時間 | |
| 文化・教養 専門課程 | スキー専攻科アルペンコース | 夜・通信 | 1,563 時間 | 160 時間 | |
| | スキー専攻科インストラクターコース | 夜・通信 | 1,570 時間 | 160 時間 | |
| (備考) | | | | | |

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

| |
|---|
| https://jwsc-snow.com/common/pdf/disclosure/offering2021c.pdf |
|---|

3. 要件を満たすことが困難である学科

| |
|-----------|
| 学科名 |
| (困難である理由) |

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

| | |
|------|------------------|
| 学校名 | 全日本ウィンタースポーツ専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人国際総合学園 |

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://jwsc-snow.com/common/pdf/disclosure/04_01_member_2021.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職 | 任期 | 担当する職務内容 や期待する役割 |
|----------|--------|------------------------------|---------------------|
| 非常勤 | 会社役員 | 2019年6月 1日～2023 年5月31日 | 教育統括的観点 |
| 非常勤 | 大学教授 | 2019年6月 1日～2023 年5月31日 | 教育統括的観点 |
| 非常勤 | 団体職員 | 2019年6月 1日～2023 年5月31日 | 政策的観点 |
| (備考) | | | |

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

| | |
|------|------------------|
| 学校名 | 全日本ウィンタースポーツ専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人国際総合学園 |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

| | |
|---|--|
| <p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 教育理念、ウィンタースポーツ業界の動向や現状を踏まえ、基礎基本の定着、応用へと発展させる。さらに、即戦力となる力を養う実践的な授業展開となるよう計画、作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月：教務会議（カリキュラム決定、シラバス（案）の策定） ・3月：シラバス作成 ・3月末：教務会議（シラバス確認、確定） ・4月：学生へ授業概要説明、公表（ホームページ記載） | |
| 授業計画書の公表方法 | <p>スノーボード専攻科 https://jwsc-snow.com/common/pdf/disclosure/curriculum01-2021b.pdf</p> <p>スキー専攻科 https://jwsc-snow.com/common/pdf/disclosure/curriculum02-2021b.pdf</p> |
| <p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> | |

| | |
|---|--|
| <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>①必修科目とされているものは、すべて履修しなければならない。</p> <p>②成績評価は、出席率、普段の授業態度、科目終了時の考査、確認テスト、提出課題、検定取得状況、大会成績等によって総合的に評価をする。</p> <p>③考査試験（筆記、実技）については、60 点以上を合格点とする。出席については、80%以上の出席者に対して評価をする。</p> <p>④各科目の成績は、100 点満点で評価をする。 講義：考査（60%）、平常点（40%） 実技・実習：関心、意欲、態度、技能 ※平常点は、学習意欲、理解度、出席率などをいう。※各科目の実情により、評価基準を変更し評価をする場合がある。</p> <p>⑤成績評価は、A、B、C、D の 4 段階とする。 A（秀 80 点以上） B（優 70 点以上） C（良 60 点以上） D（負荷 60 点未満）</p> <p>⑥考査資格。出席、授業態度等に問題がある者は、評価考査の対象から外れる場合がある。</p> <p>⑦追試験。D 評価の科目は追試験を受けることができる。追試験合格の科目は原則として、C 評価となる。追試験に合格しないものは科目不合格となる。追試験を受験する場合には、受験料を納入しなければならない。</p> <p>⑧認定試験。追試験不合格者は認定試験を受験することができる。認定試験合格の科目は、C 評価とし、合格しない者は科目不合格となる。認定試験を受験する場合は、試験料を納入しなければならない。</p> | |
| <p>3. 成績評価において、G P A 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> | |
| <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学生の成績状況を把握できるよう、各科目評価を 100 点満点で点数化し、合計点を科目数で割った平均点を指標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算出された指数は、成績分布状況の把握に使用する。 ・成績分布は、成績評価をもとに作成する。 ・成績分布の下位の学生に対し、指導を行う場合がある。 | |
| <p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p> | <p>https://jwsc-snow.com/common/pdf/disclosure/02_05_grade01.pdf</p> |
| <p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> | |

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

ディプロマポリシー

- (1) 専門知識・技術、魅力ある人間力を備えていること。
- (2) 各業界、地域社会で活躍・貢献できる実践力をもっていること。
- (3) 創造力、問題発見力・解決能力をもっていること。

卒業条件基準

- (1) 全年次の出席が良好（80%以上）であること。
- (2) 全年次の科目評価が全てC以上であること。
- (3) その他、生活行為等において問題がないこと。
- (4) 授業料等の費用を全て納付していること。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

[https://jwsc-
snow.com/common/pdf/disclosure/02_03_conditions.pd
f](https://jwsc-snow.com/common/pdf/disclosure/02_03_conditions.pdf)

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

| | |
|------|------------------|
| 学校名 | 全日本ウィンタースポーツ専門学校 |
| 設置者名 | 国際総合学園 |

1. 財務諸表等

| 財務諸表等 | 公表方法 |
|--------------|---|
| 貸借対照表 | https://jwsc-snow.com/common/pdf/disclosure/03_04_taisyaku_re.pdf |
| 収支計算書又は損益計算書 | https://jwsc-snow.com/common/pdf/disclosure/03_02_syushi_re.pdf |
| 財産目録 | https://jwsc-snow.com/common/pdf/disclosure/03_03_mokuroku_re.pdf |
| 事業報告書 | https://jwsc-snow.com/common/pdf/disclosure/03_01_jigyoku_re.pdf |
| 監事による監査報告（書） | https://jwsc-snow.com/common/pdf/disclosure/03_05_kansa_re.pdf |

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

| 分野 | | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | |
|----------|----|---------------------------|-------------------------|----------------|-----------------------|---------------|---------------------|
| 文化・教養 | | 文化・教養専門課程 | スノーボード専攻科 フリースタイルコース | ○ | | | |
| 修業 年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 2年 | 昼 | 1,894 単位時間/単位 | 276 単位 時間/単位 | 90 単位時 間/単位 | 1,108 単 位時間/ 単位 | 0 単位時 間/単位 | 420 単位 時間/単 位 |
| | | | 1,894 単位時間/単位 | | | | |
| 生徒総定員数 | | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | |
| 30人 | | 13人 | 0人 | 4人 | 9人 | 13人 | |

| |
|--|
| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
| （概要） 教育理念、ウィンター業界の動向や現状を踏まえ、基礎基本の定着、応用へと発展させる。さらに、即戦力となる力を養う実践的な授業展開となるよう計画、作成する。 |
| 成績評価の基準・方法 |
| （概要） ①必修科目とされているものは、全て履修しなければならない。 ②成績評価は、出席率、普段の授業態度、科目修了時の考査、確認テスト、提出課題、検定取得状況、大会成績等の資料によって総合的に評価する。 ③考査試験（筆記、実技）については、60点以上を合格点とする。出席については、80%以上の出席率の者に対して評価をする。 ④各科目の成績は、100点満点で評価をする。 |

| |
|--|
| <p>講義：考査（60%）、平常点（40%） 実技・実習：関心、意欲、態度、技能 ※平常点は、学習意欲、理解度、出席率などをいう。 ※各科目の実情により、評価基準を変更し評価をする場合がある。</p> <p>⑤成績評価はA、B、C、Dの4段階とする。</p> <p>A（秀 80点以上） B（優 70点以上） C（良 60点以上） D（不可 60点未満）</p> <p>⑥考査資格。出席、授業態度等に問題がある者は、評価考査の対象から外れる場合がある。</p> <p>⑦追試。D評価の科目は追試を受けることができる。追試合格の科目は原則としてC評価となる。追試に合格しない者は科目不合格となる。追試を受験する場合は、試験料を納入しなければならない。</p> <p>⑧認定試験。追試験不合格者は認定試験を受けることができる。認定試験合格の科目はC評価とし、合格しない者は科目不合格となる。認定試験を受験する場合は、試験料を納入しなければならない。</p> |
|--|

| |
|------------|
| 卒業・進級の認定基準 |
|------------|

| |
|--|
| <p>（概要） 本校では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。年度末の判定会議において審査し決定する。</p> <p>ディプロマポリシー</p> <p>（1）専門知識・技術、魅力ある人間力を備えていること。 （2）各業界、地域社会で活躍・貢献できる実践力をもっていること。 （3）創造力、問題発見力・解決能力をもっていること。</p> <p>卒業条件基準</p> <p>（1）全年次の出席が良好（80%以上）であること。 （2）全年次の科目評価が全てC以上であること。 （3）その他、生活行為等において問題がないこと。 （4）授業料等の費用を全て納付していること。</p> <p>進級条件</p> <p>（1）1年次の出席が良好（80%以上）であること。 （2）1年次の科目評価が全てC以上であること。 （3）その他、生活行為等において問題がないこと。 （4）授業料等の費用を全て納付していること。</p> |
|--|

| |
|-------|
| 学修支援等 |
|-------|

| |
|---|
| <p>（概要） 学年担任制度、少人数指導、就職サポート制度があり学校生活から就職活動まで幅広く支援体制を設けている。</p> |
|---|

| | | | |
|-----------------------------|------|-------------------|-----|
| 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 （自営業を含む。） | その他 |

| | | | |
|--|------------|-------------|-------------|
| 4人 (100%) | 0人 (0%) | 1人 (25%) | 3人 (75%) |
| (主な就職、業界等) スキー場パークディガー | | | |
| (就職指導内容) 学生の適性を把握し個別指導を実施。企業訪問研修やインターンシップ等実施し就職観を育成し就職へと結びつける。学校独自にウィンター業界からの求人情報等の情報を提供している。 | | | |
| (主な学修成果(資格・検定等)) Word 文書処理技能認定試験 3 級、Excel 表計算処理技能認定試験 3 級、日本赤十字社救急法救急員 | | | |
| (備考) (任意記載事項) | | | |

| | | |
|---|----------------|-----|
| 中途退学の現状 | | |
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 11人 | 0人 | 0% |
| (中途退学の主な理由) なし | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) 担任による学生状況の把握、個別面談等実施し、全教職員にて情報共有し支援や退学抑止に努めている。 | | |

| 分野 | | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | |
|----------|----|---------------------------|----------------------|-----------------|-----------------------|---------------|-----------------|
| 文化・教養 | | 文化・教養専門課程 | スノーボード専攻科 ビジネスコース | ○ | | | |
| 修業 年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 2年 | 昼 | 1,866 単位時間/単位 | 360 単位 時間/単位 | 118 単位 時間/単位 | 1,108 単 位時間/ 単位 | 0 単位時 間/単位 | 280 単位 時間/単位 |
| | | | 1,866 単位時間/単位 | | | | |
| 生徒総定員数 | | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | |
| 30人 | | 1人 | 0人 | 4人 | 9人 | 13人 | |

| |
|--|
| カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画) |
| (概要) 教育理念、ウィンター業界の動向や現状を踏まえ、基礎基本の定着、応用へと発展させる。さらに、即戦力となる力を養う実践的な授業展開となるよう計画、作成する。 |
| 成績評価の基準・方法 |

(概要)

- ①必修科目とされているものは、全て履修しなければならない。
- ②成績評価は、出席率、普段の授業態度、科目修了時の考査、確認テスト、提出課題、検定取得状況、大会成績等の資料によって総合的に評価する。
- ③考査試験（筆記、実技）については、60点以上を合格点とする。出席については、80%以上の出席率の者に対して評価をする。
- ④各科目の成績は、100点満点で評価をする。
講義：考査（60%）、平常点（40%） 実技・実習：関心、意欲、態度、技能
※平常点は、学習意欲、理解度、出席率などをいう。
※各科目の実情により、評価基準を変更し評価をする場合がある。
- ⑤成績評価はA、B、C、Dの4段階とする。

A（秀 80点以上） B（優 70点以上） C（良 60点以上） D（不可 60点未満）

- ⑥考査資格。出席、授業態度等に問題がある者は、評価考査の対象から外れる場合がある。
- ⑦追試。D評価の科目は追試を受けることができる。追試合格の科目は原則としてC評価となる。追試に合格しない者は科目不合格となる。追試を受験する場合は、試験料を納入しなければならない。
- ⑧認定試験。追試験不合格者は認定試験を受けることができる。認定試験合格の科目はC評価とし、合格しない者は科目不合格となる。認定試験を受験する場合は、試験料を納入しなければならない。

卒業・進級の認定基準

(概要)

本校では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。年度末の判定会議において審査し決定する。

ディプロマポリシー

- (1) 専門知識・技術、魅力ある人間力を備えていること。
- (2) 各業界、地域社会で活躍・貢献できる実践力をもっていること。
- (3) 創造力、問題発見力・解決能力をもっていること。

卒業条件基準

- (1) 全年次の出席が良好（80%以上）であること。
- (2) 全年次の科目評価が全てC以上であること。
- (3) その他、生活行為等において問題がないこと。
- (4) 授業料等の費用を全て納付していること。

進級条件

- (1) 1年次の出席が良好（80%以上）であること。
- (2) 1年次の科目評価が全てC以上であること。
- (3) その他、生活行為等において問題がないこと。
- (4) 授業料等の費用を全て納付していること。

学修支援等

(概要)

学年担任制度、少人数指導、就職サポート制度があり学校生活から就職活動まで幅広く支援体制を設けている。

| 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
|--|------------|-------------------|-------------|
| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 （自営業を含む。） | その他 |
| 1人 (100%) | 0人 (0%) | 0人 (0%) | 1人 (75%) |
| （主な就職、業界等） | | | |
| （就職指導内容） 学生の適性を把握し個別指導を実施。企業訪問研修やインターンシップ等実施し就職観を育成し就職へと結びつける。学校独自にウィンター業界からの求人情報等の情報を提供している。 | | | |
| （主な学修成果（資格・検定等）） Word 文書処理技能認定試験 3 級、Excel 表計算処理技能認定試験 3 級、日本赤十字社救急法救急員 | | | |
| （備考）（任意記載事項） | | | |

| 中途退学の現状 | | |
|---|----------------|-----|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 1人 | 0人 | 0% |
| （中途退学の主な理由） なし | | |
| （中退防止・中退者支援のための取組） 担任による学生状況の把握、個別面談等実施し、全教職員にて情報共有し支援や退学抑止に努めている。 | | |

| 分野 | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | | |
|----------|-----------|---------------------------|---------------------|----------------|-----------------------|---------------|---------------------|
| 文化・教養 | 文化・教養専門課程 | スキー専攻科 アルペンコース | ○ | | | | |
| 修業 年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 2年 | 昼 | 1,834 単位時間/単位 | 290 単位 時間/単 位 | 72 単位時 間/単位 | 1,108 単 位時間/ 単位 | 0 単位時 間/単位 | 364 単位 時間/単 位 |
| | 夜 | | 1,834 単位時間/単位 | | | | |
| 生徒総定員数 | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | |
| 30人 | 1人 | 0人 | 4人 | 9人 | 13人 | | |

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

| |
|---|
| <p>(概要)</p> <p>教育理念、ウィンター業界の動向や現状を踏まえ、基礎基本の定着、応用へと発展させる。さらに、即戦力となる力を養う実践的な授業展開となるよう計画、作成する。</p> |
| <p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>①必修科目とされているものは、全て履修しなければならない。</p> <p>②成績評価は、出席率、普段の授業態度、科目修了時の考査、確認テスト、提出課題、検定取得状況、大会成績等の資料によって総合的に評価する。</p> <p>③考査試験（筆記、実技）については、60点以上を合格点とする。出席については、80%以上の出席率の者に対して評価をする。</p> <p>④各科目の成績は、100点満点で評価をする。 講義：考査（60%）、平常点（40%） 実技・実習：関心、意欲、態度、技能 ※平常点は、学習意欲、理解度、出席率などをいう。 ※各科目の実情により、評価基準を変更し評価をする場合がある。</p> <p>⑤成績評価はA、B、C、Dの4段階とする。</p> <p>A（秀 80点以上） B（優 70点以上） C（良 60点以上） D（不可 60点未満）</p> <p>⑥考査資格。出席、授業態度等に問題がある者は、評価考査の対象から外れる場合がある。</p> <p>⑦追試。D評価の科目は追試を受けることができる。追試合格の科目は原則としてC評価となる。追試に合格しない者は科目不合格となる。追試を受験する場合は、試験料を納入しなければならない。</p> <p>⑧認定試験。追試験不合格者は認定試験を受けることができる。認定試験合格の科目はC評価とし、合格しない者は科目不合格となる。認定試験を受験する場合は、試験料を納入しなければならない。</p> |
| <p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>本校では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。年度末の判定会議において審査し決定する。</p> <p>ディプロマポリシー</p> <p>(1) 専門知識・技術、魅力ある人間力を備えていること。 (2) 各業界、地域社会で活躍・貢献できる実践力をもっていること。 (3) 創造力、問題発見力・解決能力をもっていること。</p> <p>卒業条件基準</p> <p>(1) 全年次の出席が良好（80%以上）であること。 (2) 全年次の科目評価が全てC以上であること。 (3) その他、生活行為等において問題がないこと。 (4) 授業料等の費用を全て納付していること。</p> <p>進級条件</p> <p>(1) 1年次の出席が良好（80%以上）であること。 (2) 1年次の科目評価が全てC以上であること。 (3) その他、生活行為等において問題がないこと。 (4) 授業料等の費用を全て納付していること。</p> |

| |
|---|
| 学修支援等 (概要) 学年担任制度、少人数指導、就職サポート制度があり学校生活から就職活動まで幅広く支援体制を設けている。 |
|---|

| | | | |
|--|--------------|-------------------|------------|
| 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
| 1人 (100%) | 1人 (100%) | 0人 (0%) | 0人 (0%) |
| (主な就職、業界等) | | | |
| (就職指導内容) 学生の適性を把握し個別指導を実施。企業訪問研修やインターンシップ等実施し就職観を育成し就職へと結びつける。学校独自にウインター業界からの求人情報等の情報を提供している。 | | | |
| (主な学修成果（資格・検定等）) Word 文書処理技能認定試験 3 級、Excel 表計算処理技能認定試験 3 級、日本赤十字社救急法救急員、SAJ 公認スキー準指導員 | | | |
| (備考) (任意記載事項) | | | |

| | | |
|---|----------------|-----|
| 中途退学の現状 | | |
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 0人 | 0人 | 0% |
| (中途退学の主な理由) なし | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) 担任による学生状況の把握、個別面談等実施し、全教職員にて情報共有し支援や退学抑止に努めている。 | | |

| 分野 | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | | |
|----------|-----------|---------------------------|-----------------|----------------|-----------------------|---------------|-----------------|
| 文化・教養 | 文化・教養専門課程 | スキー専攻科 インストラクターコース | ○ | | | | |
| 修業 年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 2年 | 昼 | 1,834 単位時間/単位 | 290 単位 時間/単位 | 72 単位時 間/単位 | 1,108 単 位時間/ 単位 | 0 単位時 間/単位 | 364 単位 時間/単位 |
| | | | 1,834 単位時間/単位 | | | | |

| 生徒総定員数 | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 |
|--------|------|--------|-------|-------|------|
| 30人 | 4人 | 0人 | 4人 | 9人 | 13人 |

| |
|---|
| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
| （概要） 教育理念、ウィンター業界の動向や現状を踏まえ、基礎基本の定着、応用へと発展させる。さらに、即戦力となる力を養う実践的な授業展開となるよう計画、作成する。 |
| 成績評価の基準・方法 |
| （概要） ①必修科目とされているものは、全て履修しなければならない。 ②成績評価は、出席率、普段の授業態度、科目修了時の考査、確認テスト、提出課題、検定取得状況、大会成績等の資料によって総合的に評価する。 ③考査試験（筆記、実技）については、60点以上を合格点とする。出席については、80%以上の出席率の者に対して評価をする。 ④各科目の成績は、100点満点で評価をする。 講義：考査（60%）、平常点（40%） 実技・実習：関心、意欲、態度、技能 ※平常点は、学習意欲、理解度、出席率などをいう。 ※各科目の実情により、評価基準を変更し評価をする場合がある。 ⑤成績評価はA、B、C、Dの4段階とする。 A（秀 80点以上） B（優 70点以上） C（良 60点以上） D（不可 60点未満） ⑥考査資格。出席、授業態度等に問題がある者は、評価考査の対象から外れる場合がある。 ⑦追試。D評価の科目は追試を受けることができる。追試合格の科目は原則としてC評価となる。追試に合格しない者は科目不合格となる。追試を受験する場合は、試験料を納入しなければならない。 ⑧認定試験。追試験不合格者は認定試験を受けることができる。認定試験合格の科目はC評価とし、合格しない者は科目不合格となる。認定試験を受験する場合は、試験料を納入しなければならない。 |
| 卒業・進級の認定基準 |
| （概要） 本校では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。年度末の判定会議において審査し決定する。 ディプロマポリシー （1）専門知識・技術、魅力ある人間力を備えていること。 （2）各業界、地域社会で活躍・貢献できる実践力をもっていること。 （3）創造力、問題発見力・解決能力をもっていること。 卒業条件基準 （1）全年次の出席が良好（80%以上）であること。 （2）全年次の科目評価が全てC以上であること。 （3）その他、生活行為等において問題がないこと。 （4）授業料等の費用を全て納付していること。 進級条件 |

| |
|---|
| <p>(1) 1年次の出席が良好（80%以上）であること。</p> <p>(2) 1年次の科目評価が全てC以上であること。</p> <p>(3) その他、生活行為等において問題がないこと。</p> <p>(4) 授業料等の費用を全て納付していること。</p> |
| 学修支援等 |
| <p>(概要)</p> <p>学年担任制度、少人数指導、就職サポート制度があり学校生活から就職活動まで幅広く支援体制を設けている。</p> |

| 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
|--|------------|-------------------|------------|
| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
| 1人 (100%) | 0人 (0%) | 0人 (0%) | 1人 (0%) |
| (主な就職、業界等) | | | |
| (就職指導内容) 学生の適性を把握し個別指導を実施。企業訪問研修やインターンシップ等実施し就職観を育成し就職へと結びつける。学校独自にウィンター業界からの求人情報等の情報を提供している。 | | | |
| (主な学修成果（資格・検定等）) Word 文書処理技能認定試験 3 級、Excel 表計算処理技能認定試験 3 級、日本赤十字社救急法救急員、SAJ 公認スキー準指導員 | | | |
| (備考) (任意記載事項) | | | |

| 中途退学の現状 | | |
|---|----------------|-----|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 0人 | 0人 | 0% |
| (中途退学の主な理由) なし | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) 担任による学生状況の把握、個別面談等実施し、全教職員にて情報共有し支援や退学抑止に努めている。 | | |

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

| 学科名 | 入学金 | 授業料 (年間) | その他 | 備考 (任意記載事項) |
|-----------------|----------|-------------|-----------|-------------|
| スノーボード専攻科 | 70,000 円 | 770,000 円 | 960,000 円 | 施設設備整備費、実習費 |
| スキー専攻科 | 70,000 円 | 770,000 円 | 960,000 円 | 施設設備整備費、実習費 |
| | 円 | 円 | 円 | |
| | 円 | 円 | 円 | |
| 修学支援 (任意記載事項) | | | | |
| 一人暮らし支援制度、奨学金制度 | | | | |

b) 学校評価

| | | |
|---|------------------------|------|
| 自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://jwsc-snow.com/common/pdf/disclosure/05_01_self_re.pdf | | |
| 学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 学校評価委員を選任し学校関係者評価委員会を実施し、学校運営の改善、教育活動の改善を図る。評価項目は、教育理念、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受入れ募集、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献の項目から意見を頂く。委員については、関係業界、地域住民、保護者、卒業生より3名程度専任する。評価結果をとりまとめ、学校運営改善案を策定し学校運営に努めていく。併せて、ホームページに情報を公開していく。 | | |
| 学校関係者評価の委員 | | |
| 所属 | 任期 | 種別 |
| PSA ASIA 理事 | 令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 | 団体代表 |
| 一般社団法人 アウトドアソリューション | 令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 | 企業代表 |
| | | |
| | | |
| 学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://jwsc-snow.com/common/pdf/disclosure/05_02_committee_re.pdf | | |
| 第三者による学校評価 (任意記載事項) | | |
| | | |

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

<https://jwsc-snow.com/>

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

| | |
|------|------------------|
| 学校名 | 全日本ウィンタースポーツ専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人国際総合学園 |

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

| | | 前半期 | 後半期 | 年間 |
|--------------------|------|-----|-----|----|
| 支援対象者（家計急変による者を除く） | | 0人 | 0人 | - |
| 内 訳 | 第Ⅰ区分 | - | - | |
| | 第Ⅱ区分 | - | - | |
| | 第Ⅲ区分 | 0人 | - | |
| 家計急変による支援対象者（年間） | | | | 0人 |
| 合計（年間） | | | | 0人 |
| (備考) | | | | |

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|----|----|
| 年間 | 0人 |
|----|----|

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

| | 右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、高等 専門学校（認定専攻科を含む。）及 び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。） | | |
|---|--|-----|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修業年限で卒業又は修了 できないことが確定 | 人 | 0人 | 0人 |
| 修得単位数が標準単位数 の5割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の5割以下) | 人 | 0人 | 0人 |
| 出席率が5割以下その他 学修意欲が著しく低い状況 | 人 | 0人 | 0人 |
| 「警告」の区分に 連続して該当 | 人 | 0人 | 0人 |
| 計 | 人 | 0人 | 0人 |
| (備考) | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

| 右以外の大学等 | | 短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、高等 専門学校（認定専攻科を含む。）及 び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。） | | | |
|---------|----|---|----|-----|----|
| 年間 | 0人 | 前半期 | 0人 | 後半期 | 0人 |
| | | | | | |

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|---------|----|
| 退学 | 0人 |
| 3月以上の停学 | 0人 |

| | |
|------|----|
| 年間計 | 0人 |
| (備考) | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

| | |
|---------|----|
| 3月未満の停学 | 0人 |
| 訓告 | 0人 |
| 年間計 | 0人 |
| (備考) | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。） | |
|---|---------|---|-----|
| | | 年間 | 前半期 |
| 修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下) | 人 | 0人 | 0人 |
| GPA等が下位4分の1 | 人 | — | 0人 |
| 出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況 | 人 | 0人 | — |
| 計 | 人 | — | — |

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。